（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ソレイユ			
○保護者評価実施期間	2026年　1月　5日	～	2026年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	3
○従業者評価実施期間	2026年　1月　5日	～	2026年　3月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　5月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の個々の発育に合わせた活動プログラムの提供	お子さまの持つ特性や課題に沿った活動プログラムを組み立てています。認知教材を用いた活動や季節ごとのイベントの開催など様々な活動を取り入れています。また、定期的に活動プログラムを見直すことで活動内容が固定化しないよう工夫し、楽しく通所してもらえるよう取り組んでいます。	多様な活動プログラムを用意し、子どもたちに様々な体験を通して成長してもらえるよう心掛けていきます。日常生活において必要なルールやマナー、コミュニケーション能力を身に付けられる療育支援の提供に努めます。お子様の個性を尊重し、保護者の気持ちに寄りそった支援を継続していきます。
2	家族支援の取り組み	お子様の日々の活動の様子を伝えることで保護者の方との情報共有に努めています。また、お子様のご家庭での様子やご家族の様子を聞き取りし、心配事や困りごとの相談に応じています。ご家族の方にはお子様の発達状況に応じた関りが持てるよう支援しています。	お子様に必要なことを保護者の方と一緒に考え、積極的に情報交換を行うことで信頼関係の構築に努めます。お子様の個性を尊重し保護者の気持ちに寄り添った支援の提供を心掛けてまいります。
3	子供たちが心地よく通所できる安心安全で清潔な環境整備	毎日欠かすことなく清掃やアルコール消毒を行い、整理整頓に取り組んでいます。緊急時の避難についても迅速に行える動線を意識した環境整備を行っています。また、エリアの明確化や合理的な物の配置などを工夫し、子供たちがストレスなく活動できる環境づくりをしています。	安全で清潔な空間づくりのための環境整備を徹底していきます。また、怪我等の予防策として安全点検を実施し必要な対策を講じていきます。子供たちが安心感を持って楽しみながら通所できる環境づくりをしてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の能力や専門性の向上	利用者の抱える背景や特性は多様化しており、マニュアル通りの対応では適切な支援が難しい現状があります。質の高い療育を提供するため人材育成と専門性の確保が急務となっています。	職員の経験や専門性を考慮した配置を工夫し、必要に応じて人材確保に努めます。また、職員の資質向上のため定期的に勉強会や研修を開催したり、外部の研修やセミナー等にも積極的に参加できる体制を強化していきます。職員全体で日々の支援の振り返りを行い、職員間で情報共有を徹底し支援の向上に繋げます。
2	療育室の活動空間やバリアフリー化に対する環境整備	療育スペースの確保については、構造上の課題があり設備の変更が難しく活動プログラムによっては十分な活動スペースの確保に限界があります。また、物理的なバリアフリー化や視覚的なわかりやすさを考慮した空間の整備が必要です。	構造上の変更には限界があるため、物品の整理整頓を徹底したり道具を活用する等の工夫をして環境整備に取り組んでまいります。また、今後も活動内容によっては外部施設や公園等の利用を積極的に取り入れていきます。バリアフリー化についても設備面の変更を含め可能な限りの改善に取り組みます。
3	各種マニュアルの策定や避難訓練等の情報発信について	各種マニュアルの策定や定期的な避難訓練の実施について情報発信していますが、保護者の方への情報伝達が不十分な現状があります。	保護者の皆様にしっかりと情報伝達できる仕組み作りに取り組んでまいります。また、非常時の対応についても定期的に訓練を実施し情報共有に努めてまいります。